

令和7年度 岩城中学校 学校関係者評価集計表

結果：4＝あてはまる 3＝おおむねあてはまる 2＝どちらかといえばあてはまらない 1＝あてはまらない

評価：A＝対象の80%以上が肯定 B＝対象の70%以上が肯定 C＝対象の60%以上が肯定 D＝対象の60%未満が肯定

生徒 43人 保護者 38人

教員 7人 地域 7人

項目	細 目	評価指標	評価資料	アンケート結果%					評価	(自己)評価の ○分析・考察 ◎改善策	学校運営協議会委員からの ○意見◎今後の改善の方策	%
				4	3	2	1	無				
教育課程・学習指導	A 教育目標	1「確かな学力の定着と思いやりの心の育成」の達成に向けて、具体的に努力している。	教職員	29	71	0	0	0	A	◎一朝一夕に達成できるものではなく、試行錯誤しながら継続的な取り組みを進めていく		96%
			生徒									
			保護者	11	76	11	0	0				
			地域住民	43	57	0	0	0				
	C 学力・学習習慣	1基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	教職員	57	43	0	0	0	A	○授業のはじめの復習に時間を割いている ◎テストに追われ授業が進まない面があり、先の見通しを立ててより計画的に進めなければならない ◎テスト結果は個別最適な学習における貴重なデータであり、その活用方法についての研究が必要		92%
			生徒	26	58	14	2	0				
			保護者	11	74	13	2	0				
			地域住民	43	43	0	0	14				
		2学習習慣・学習態度（家庭学習も含む）の育成に努めている。	教職員	29	71	0	0	0	B	○学習方法について、経験を基に指導している ◎効果的な宿題について検討して適切に実施することが必要である	◎家庭とも連携して家でのゲームやSNSを使用する時間の削減に努める	73%
			生徒	30	40	14	16	0				
			保護者	16	34	39	11	0				
			地域住民									
		3生徒は、発表の仕方や表現力が身に付いている。	教職員						C	○グループやペアによる学習機会は設けている。意見交換や発表にとどまり、高め合ったり深め合ったりするところが課題と感じる ◎話し合い活動を増やすことで、自分の考えを持たせて表現する力を養う	○文化祭や運動会で子供たちが生き生きしていた ○C評価の向上は簡単ではないが改善に取り組んでほしい ○リーダーの育成を頑張ってほしい	62%
			生徒	23	53	14	9	0				
			保護者	11	37	47	5	0				
			地域住民									
	D 学習指導	1指導法や指導体制の工夫・改善に努め、分かる授業づくりに取り組んでいる。	教職員	43	57	0	0	0	A	○話し合いの機会をつくる ○昨年度と同じ教材であっても、今の生徒に合うようにワークシートや小テストの作り直しや授業展開の見直しをしている		95%
			生徒	58	40	2	0	0				
			保護者	8	79	11	3	0				
			地域住民									
		2学習の充実のために、自然・文化・人など、地域の特色を生かしている。	教職員	29	71	0	0	0	A	○防災マップなど、使えるものは地元の物を使っている ◎今年度は地域の人材を開拓して協力を要請したのでその関係を維持したい	○修学旅行でふるさとの産業をアピールしている ○職場体験に一生懸命取り組んでいる ○職場体験は実際に仕事を体験することで将来の進路選択のひとつにもなるのでよいと思う ◎今回（統廃合）のような話題があったとき、今の生徒は関係ないではなく、自分たちが大人になったとき、学校のないふるさとに帰って来たいか等話し合わせてもよいのではないか。それもふるさとのについて考えることにつながる ◎感想文や作文を作成する際に生成AIを使用しないように指導する	91%
			生徒	58	28	9	5	0				
			保護者	39	53	8	0	0				
			地域住民	57	29	14	0	0				
3教材や教具・教育機器（ICT）等を効果的に活用している。		教職員	43	57	0	0	0	A	○小テストをロイロノートで作っている ○小テストのCBT化 ◎特にICT機器についてはその特性と効果的な活用方法について研究を深める		95%	
		生徒	49	49	2	0	0					
		保護者	8	79	11	3	0					
		地域住民										
E 心の教育	1望ましい人間関係づくりに努めている。	教職員	43	57	0	0	0	A	○ありがとうと言う習慣を付けさせている ○生徒が職員室に入室する際の声掛けには必ず返事をするようにしている ○毎日、クラスの生徒全員と話すようにしている ○コミュニケーションを大切にしている	○生徒同士の仲がよい ○学校や家庭において、互いに語り合う時間を持つとよい	91%	
		生徒	63	35	2	0	0					
		保護者	8	61	29	3	0					
		地域住民	57	29	0	0	14					
	2生徒が命の大切さを実感できる教育の充実に努めている。	教職員						A	○生徒の模範となるように、有言実行や率先垂範を心掛けている		98%	
		生徒	77	21	0	2	0					
		保護者										
		地域住民										
	3人権・同和教育年間指導計画を立案し、実践している。	教職員	0	86	14	0	0	A	◎全ての教科とその授業において、教師や生徒の発言も含めて人権・同和教育の視点を持ち、適切に指導を進めなければならない	○人権啓発劇の取組がすばらしい ○人権啓発劇の継続は大変ありがたく、ぜひ続けてほしい	93%	
		生徒										
		保護者	21	74	0	5	0					
		地域住民	43	43	0	0	0					
	4生徒はJRC活動や積善運動に積極的に取り組んでいる。	教職員	14	57	14	0	0	A		◎積極的なボランティア活動や青少年赤十字活動の精神を生かした活動を行う ◎福祉関係の施設を訪問しての体験学習をすることがあってもよいのではないか	86%	
		生徒	56	33	9	2	0					
		保護者										
		地域住民										
F 部活動	1生徒は部活動に意欲的に取り組んでいる。	教職員						A			92%	
		生徒	79	14	0	0	7					
		保護者	45	39	11	5	0					
		地域住民										
生徒指導	G 生徒及び進路	1生徒一人一人にアンケートや教育相談などを実施し、全校職員が協力して、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に努めている。	教職員	57	43	0	0	0	A	○教員間での生徒の情報共有に努めている ○授業での生徒の様々な様子を職員室で話そうにしている ◎学級担任だけによる進路指導で終わる傾向があり、複数の教員による協働活動が必要である ◎生徒理解のための機会（全校教育相談など）の創出と実施が必要である ◎生徒等の情報をどのタイミングでどの範囲まで伝えるべきか考慮しながらも積極的に共有してチームで対応する		87%
			生徒	47	35	14	5	0				
			保護者	11	68	18	3	0				
			地域住民	43	43	0	14	0				
		2基本的な生活習慣の育成に努めている。	教職員						B			78%
			生徒	42	42	14	2	0				
			保護者	18	53	21	5	0				
			地域住民									
		3進んで気持ちのよいあいさつができています。	教職員						A	◎部活動中に挨拶をされることがあまりなく、生徒の日常生活に生かされる実践的な指導が必要である	○挨拶がよくできる ○挨拶の声は生徒によってそれぞれではあるが、大半の生徒が気持ちの良い挨拶を交わしてくれる	91%
			生徒	53	37	7	2	0				
			保護者	21	58	18	0	0				
			地域住民	67	33	0	0	0				
		4将来の夢や希望について、話したり、考えたりする活動をしている。	教職員	14	57	29	0	0	D	◎まずは、教師が語る場面を創出し、生徒と教師あるいは生徒同士でも話し合う場を設定する	◎職場体験学習の事業所等とも連携して、高校から先の進路について具体的に考えられる取組をすればよい	60%
			生徒	26	30	37	7	0				
			保護者	13	39	42	5	0				
			地域住民									
健康安全	H 学校保健安全	1非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	教職員	100	0	0	0	0	A	○食育や薬物乱用防止教室など適切に行えている ◎災害発生時に起こりうる状況を想定した実践的な避難訓練の実施に努める	○登校時や下校時に、下り坂はスピードを落とすように啓発をし続けなければならない	94%
			生徒	44	53	2	0	0				
			保護者	29	63	5	3	0				
			地域住民	71	14	0	14	0				
特別支援教育	I 特別支援教育	1コーディネーターを中心に、特別支援体制を整え、協力して支援している。	教職員	29	57	14	0	0	B	○支援員さんにも生徒の様子が気になるときは、事前に伝えるようにしている。（年度当初よりも情報共有回数を増やしている） ◎生徒は支援員さんに頼ることが多く、自主的に行動する力を身に付ける取組を進めていかなければならない	○生徒の主体的な自立のための支援方法や段階に応じた手立てを講じなければならない	74%
			生徒									
			保護者	8	55	29	8	0				
			地域住民									
保護者・地域との連携	J 保護者・地域との連携	1保護者や地域の人々とのふれあいを通して、信頼関係を確立している。	教職員	29	71	0	0	0	A	○生徒の変化はすぐに保護者に伝えている ○小学校の先生と生徒について情報交換をしている ○連絡ノートを作成し、毎日、生徒の様子を保護者に伝えている ○リフレッシュ瀬戸内など地域行事に参加している	◎中学生の保育実習の様子を見て、幼児の関わり方がよく分かっていないように感じたので、小学生の段階からそのような機会を持たせることを検討してもよいのではないか ○文化祭や参観日において、参観側の視点も考える	97%
			生徒									
			保護者	26	68	5	0	0				
			地域住民									
		2「学校だより」や「学級だより」等の内容は適切である。	教職員						A	○保護者や地域に対して学校への理解を深めてもらうため有効な手段であり、より効果的な内容の提示に努める		99%
			生徒									
			保護者	34	63	3	0	0				
			地域住民	43	57	0	0	0				
施設・設備	K 施設・設備	3校舎内外の美化に努めている。	教職員	14	86	0	0	0	A	◎敷地周りの環境美化を教職員だけで維持するのは限界であり、CSや保護者への協力を働き掛けなければならない		96%
			生徒	67	33	0	0	0				
			保護者	39	58	3	0	0				
			地域住民	43	43	14	0	0				